

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	くろみ		
○保護者評価実施期間	令和7年1月6日		令和7年1月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 7名
○従業者評価実施期間	令和7年1月20日		令和7年1月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月25日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・SST活動において保護者様から求められる事が多く、レクリエーション終了時や余暇活動を通し振り返りの場を作る事で自身を客観視し社会生活を送る上で必要な社会ルールや対人マナーを学べる様、今後はどうしていく方が良いのかを一緒に考えながらサポートする事で一人一人のペースに合わせたテップアップを試み、理解し行動出来る事を増やしている様にしています。	・振り返りを行う事でただ単にレクリエーション楽しかった。で終わるのではなく活動内容の意味を児童達にも理解して頂き、自分自身でも成長に向かう意識が持てる様にしています。振り返りシートを活用する事で個人で内容の呼び起こし、グループワークで取り組む事で双方への感性を持ち経験や感想を共有する事で共感性や問題解決方法また対人マナーやスキルが養える様にしています。	・振り返りシートでは内容が固定化してしまう為、定期的に内容の見直しやレクリエーションの内容に沿ったもの、さらには児童一人一人に合ったシートの作成が行える様にしていきたいと思っています。グループワークでは普段自身の気持ちを伝える事が苦手な児童にとっても同じ体験をした仲間の中では意見を述べる機会が増えてきている為、継続的に行っていきたいと思っています。
2	・学習支援では保護者様から求められる事が多く本人の学力レベルやベースを保護者様とも共有し意向のずれ違いが発生しない様努め、児童一人一人に合った学習内容や提供方法を行う事で児童自身も取り組みやすく、また毎朝の朝礼時に個別学習記録シートを用いながら取り組み状況の振り返りや理解度の確認をスタッフで報告し合う事で常に最新の情報をキャッチし提供課題を準備する際の参考にしています。	・学習については、保護者様の意向を優先しがちになってしまいうえに、当事業所では児童の学習レベルを把握した上で学習に対してのモチベーションを維持出来る様、児童の意向を最優先に捉え、保護者様と意思確認をする事で保護者様の満足度、また児童の意欲向上を図っています。	・内容のマンネリ化を防止すると共に学力向上を図る為、どの児童に対しても各内容のテストを定期的に行う事で現時点での学力レベルを的確にキャッチし次に進む目安としていきたいと思っています。
3	・レクリエーションを考案する際は、活動目的を明確にし全スタッフで共有する事で取り組み時特に意識し観察する事項を把握する事で共通意識を持って活動に参加出来る様にしています。また、児童にも目的を伝える事でレクリエーション内のルールや留意事項を意識し参加出来る様にし、ルールを守る事の必要性やポイントを抑える事で振り返りを行う際の自己分析の目安としている。	・レクリエーションを考案する中で児童の希望を聞き入れ取り入れる事でより意欲的参加出来る様にし、希望を聞き入れる体制にする事で活動内容の固定化の防止や自己発信するきっかけ作りになればと思っています。また、聞き入れるオープンな環境作りを行う事で子供達がスタッフにレクリエーション以外の事柄でも相談しやすい関係性が築ける様にしています。	・考案自体はスタッフもしくは児童の希望を取り入れているが、保護者目線で活動に取り入れて欲しい物の聞き取りの実施や考案だけではなく企画書の作成や事前準備等々の実践までに必要な事柄全てをスタッフと児童とで行いよりレクリエーションにおける取り組みの意味や充実度の向上を図ってまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・新しく入社スタッフが各児童の特性や対応方法を事前説明等を行っているが、実際に目の前で急な事象が発生した場合は対応が追いつかず長く努めているスタッフが対応せざる負えない事がある。 どのスタッフでも急な事象が発生した時の判断力と行動力が発揮出来る様、教育を行う必要があると感じている。	・長く勤めているスタッフが急な事象に対応した際、新人スタッフの対処に対する改善案の提示が出来ていない事。また、先回りをし対応に当たってしまう為、見守りの中新人に対応を任せる事が出来ていなかった。	・上記でも述べた様に発生した事象に対しスタッフ間での共有や対応の振り返りを行い全スタッフを対象に共通意識を持ち支援に当たる事で統一した支援が提供出来る様にしています。 また、実際対応を見守りの元行ってもらう事で対象時等の特性の理解度を上げる事でより質の良い支援が提供出来る様にしていきたいと思っています。
2	・よくも悪くも保護者様が悩みを相談するスタッフが固定化してしまっている事が多くある為、万が一対象スタッフが退職や急病で対応し兼ねる際に保護者様との的確な情報共有が行えなくなる可能性があると感じています。	・他の事業所からのお付き合いもある保護者様もいる為、環境としては仕方ない部分もあるがチームで支援を考える上で誰が一人が担うのではなく誰に相談しても支援内容の提案や解決策を思考し提示出来る様、知識とスキルの向上が必要と思う。	・保護者面談時には対象スタッフとその他のスタッフが立ち会う事で相談相手が固定化しない様にし保護者様とその他のスタッフの信頼関係が構築しやすい様工夫した面談や支援や申し送りを通して児童の特性を理解する事で保護者様の安心が得られる様、障害研修により力を入れ実践していきたいと思っています。
3	・事業所が10月からオープンし様々環境からスタッフが集まり日々の業務に当たっている為、スタッフ間での連携や信頼度に距離がある様に感じる。	・朝礼時、等しく発言が出来る様話の振り方を工夫したり休憩時に話題を提供する事でお互いを知るきっかけ作りに欠けている。	・時間と共に解決する事なのかもしれないが、よりお互いを知る事で事業所の雰囲気作りにも役立つと思う為、自身が率先し相手の良い所を見つけて発信する事で信頼関係の構築を図る。